

接種パターンについて

(平成23年1月修正版)

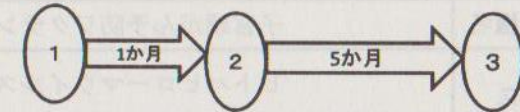
子宮頸がん等予防ワクチン

ヒブワクチン

小児用肺炎球菌ワクチン

子宮頸がん予防ワクチン

中学1年～高校1年相当
の女子
(13歳～16歳)

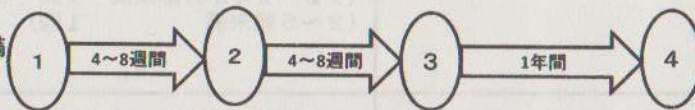


6ヶ月間で3回接種

ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン

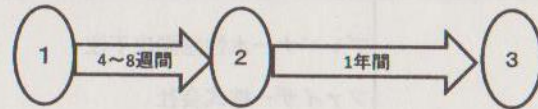
標準

生後
2～7か月未満
で接種開始



標準でできなかった場合

生後
7～12か月未満
で接種開始



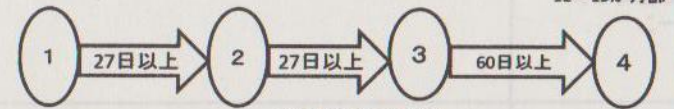
1歳～5歳未満



小児用肺炎球菌ワクチン

標準

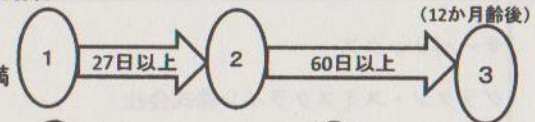
生後
2～7か月未満
で接種開始



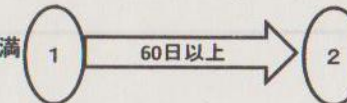
12か月齢までに3回接種

標準でできなかった場合

生後
7～12か月未満
で接種開始



12～24か月未満
で接種開始



2歳～5歳未満



3種類のワクチン接種の概要（横浜市）

ワクチン接種名	子宮頸がん予防ワクチン	ヒブ(インフルエンザ菌b型) ワクチン	小児用肺炎球菌ワクチン（7価）
原因菌 原因ウイルス	ヒトパピローマウイルス	インフルエンザ菌b型	肺炎球菌
病気の概要	ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染で、 子宮頸がん （扁平上皮細胞癌、腺癌）及びその前駆病変（子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）2及び3）を起こす。	インフルエンザ菌のb型は 中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎 などの表在性感染症のほか、 髄膜炎、敗血症、肺炎 など重篤な感染症を起こす病原細菌であり、乳幼児の重篤な症状を引き起こす。	肺炎球菌は、組織侵入性の感染を起こし、 肺炎、化膿性髄膜炎、時に敗血症 を起こす。また 中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎 の起因菌となることも知られている。
国の示す 接種対象年齢	中学1年～高校1年生相当の女子	2か月齢～5歳未満 （標準 2～7か月齢未満で接種開始）	2か月齢～5歳未満 （標準 2～7か月齢未満で接種開始）
接種回数	3回 筋肉注射（0.5ml/回）	標準 4回 皮下注射（0.5ml/回）	標準 4回 皮下注射（0.5ml/回）
接種方法 ◎は標準的パターン	◎初回、 初回から1か月後、 初回から6か月後 の 3回	◎2～7か月齢未満で開始 3回 追加 1回 (7～12か月齢未満 2回 追加1回) (1歳～5歳未満 1回)	◎2～7か月齢未満で開始し 1歳までに3回 追加 12～15か月齢で1回 (7～12か月齢未満 2回 60日以上後 1回) (12～24か月齢未満 1回 60日以上後 1回) (2～5歳未満 1回)
標準接種間隔	3回：初回、初回から1ヶ月後、初回から6か月後	1～3回：4～8週間の間隔で1回ずつ 追加：最終接種後、1年あけて1回	1～3回：27日間以上の間隔で1回ずつ 追加：最終接種後、60日以上あけて1回
販売名 製薬会社	サーバリックス グラクソ・スミスクライン株式会社	アクトヒブ 第一三共株式会社	プレベナー水性懸濁皮下注 ファイザー株式会社